

## スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	上智大学
整理番号	B15
構 想 名	多層的ハブ機能を有するグローバルキャンパスの創成と支援ガバナンスの確立

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin-bottom: 10px;">S</div> 優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント)	
<p>本構想は、「世界をつなぐ叡智（ソフィア）の醸成」、「グローバルキャンパスの創成」、「世界に並び立つ教育研究を支援するガバナンス支援」を3つの柱として、グローバル教養教育の体系化や海外研究機関との教育連携、世界で活躍するグローバル人材の環流拠点としての「コネクト・ハブ」の形成を目指すものである。</p> <p>構想の実現に向けて、入試制度の多様化や海外拠点の構築とその機能強化、迅速な意思決定環境の整備、IR推進体制の構築など、多くの具体的な取組が行われている。目標の設定も大学の特色や歴史を踏まえた妥当なものであり、国際通用性を強く意識した取組の多くが既に目標以上の成果を挙げつつある。</p> <p>カトリック大学としての特性を活用した世界的なネットワークを構築するとともに、学融合型英語プログラム（SEMPEP）を展開するなど、国際的なキャンパス形成が着実に進められている。教員や事務職員の高度化への具体的な取組が実施され、グローバル化に対応した人事システムも採られている。学生納付金のみならず、資産運用や学外からの寄付金を用いて学内での予算を工面し、本事業に投入したことも高く評価出来る。また、興味深い試みとして、新棟に本店を置く「あおぞら銀行」との連携が挙げられる。この提携により、全学部生を対象とする「バンキング基礎演習」や「外国人留学生向けインターンシップ」等の実施が可能となり、銀行からのテナント収入は事業終了後も継続して自立的に発展するための財政基盤として一定の役割を果たすものと期待出来る。</p> <p>目標の達成状況については、人文・社会科学系の英語による研究成果発信に関わる学内助成・支援制度が整えられていると言える。また、教職員や学生の多様性（国籍やジェンダー等）にも配慮が成されており、特に国際化の鍵の一つである女性が活躍出来る環境の整備に関して、教職員に占める女性の比率が50%を超えている点は高く評価する。今後、より一層、女性が大学運営に関われるよう、意思決定に参画出来るポジション（学長、学部長、研究科科長等）への登用が望まれる。留学生用の宿舎に関しては、既存の国際交流会館のみならず新しい混住型学生宿舎の建設を進めることで、留学生と日本人学生の共同生活を通じた人間成長と国際感覚の涵養が試みられている。</p> <p>国際化教育の豊かな経験と実績のある大学として、その優位性を引き続き十分に活かし、事業終了後を見据えた自立的な取組の継続により、今後の日本の大学のモデルとなることを期待する。</p>	